

	単元名：のりものにへんしん！ 「じまんカルタたいかい」をしよう			
＜ステップ1＞単元として付けたい力を確定する ○年間指導計画（マトリックス表 年間単元重点一覧表）を活用して年間を見通した上で、この単元でどのような力を付けたいのか、学習指導要領の指導事項の中から確定する。	指導事項 ○C（エ）文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○（イ）時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。			
＜ステップ2＞言語活動を確定する ○ステップ1で確定した付けたい力を育成するのにふさわしい言語活動を適切に選定する。指導事項と言語活動を組み合わせて考えることで、付けたい力をできるだけ具体的におさえる。 ○言語活動を位置付けることによって、子ども自身にとっての相手意識や目的意識に応じた学習活動を可能にすることができる。	言語活動 お気に入りの乗り物に変身して『じまんカルタたいかい』をしよう。 ☆自分のお気に入りの乗り物になりきって役目や工夫についてカルタにまとめ、カルタたいかいをする。			
＜ステップ3＞言語活動を遂行するための能力をリストアップし整理する ○取り上げた言語活動をもとに、付けたい力を具体的なレベルで明らかにしていく。その能力の全てを1つの単元で重点的に指導するのではなく、下記の点のさびわけが必要。 ① 該単元で重点的に指導するもの ② 前単元までに既に身に付いている能力なので、当該単元では、それを活用させるもの ③ 子どもたちの実態に照らして、まだ指導するのは難しいため、重点的に扱うのは次単元以降に回し、本単元では手厚く手立てをとり、活動が円滑に行われるように支援するもの	必要な能力 ①＜重点＞それぞれの乗り物の役目や工夫を表す大事な文やことばを見つけながら読む力。			
	②＜既習＞事柄の順序に気をつけて内容を正しく読み取る力。			
	③＜支援＞乗り物の特徴が伝わるように役目や工夫を整理して書く力。			
＜ステップ4＞リストアップした能力を育成する指導過程を構想する ○子どもの実態を十分踏まえた指導過程の構想が大切。陥りがちなのは、「読むこと」において、単元の第三次での言語活動は活発に行えるように指導過程を組むが、第二次で教材文を読む時は、段落ごとに平板に読み進めてしまうというケース。第二次においても、子どもたちの「気になる」「不思議」「調べたい」などといった主体的な思考や判断を生かせるような場の設定が重要。 ○教材を読む第二次では、場面や段落ごとに読み進めるのではなく、指導事項に対応した指導過程を工夫する。 ＜教材を読むポイント＞ 物語文・・・「登場人物の行動」「登場人物の性格」「中心人物の変化」「情景・心情描写」「優れた叙述」 説明文・・・「順序」「中心となる語」「事実と意見の関係」「要旨」「自分の考えを明確にして読む」など	単元計画			
	一次	3時間	① 乗り物への興味を持たせ、教師のモデル「じまんカルタ」を見て、単元のゴールイメージを持つ。 ② お気に入りの乗り物をさがすために、図鑑を読む。 ③ 学習計画を立てる。	
	二次	5時間	のりものにへんしん！ 「じまんカルタたいかい」をしよう ④ どんな船がでてくるか確かめる。（文章の構成） ⑤ それぞれの船の説明の順序を読み取る。（役目・工夫・できること） ⑥ 船の役目を読み取り、お気に入りの乗り物の役目について大事なことばを書きぬく。 ⑦ 船の工夫を読み取り、お気に入りの乗り物の工夫について大事なことばを書きぬく。 ⑧ 船のできることを読み取り、お気に入りの乗り物のできることにについて大事なことばを書きぬく。	
	三次	4時間	⑨ じまんカルタを作る。 ⑩ じまんカルタを作る。 ⑪ じまんカルタ大会をする。 ⑫ ふりかえりをする。	